

AsyncOS 9.7.x への ESA アップグレードの後の CPU 使用率が高い状態

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[AsyncOS 9.7.x への ESA をアップグレードした後で CPU 使用率が高い状態](#)

[機能による CPU 使用](#)

[変更した点](#)

[前に AsyncOS 9.7:](#)

[AsyncOS 9.7 以上に:](#)

[CPU 負荷対 CPU 稼働率](#)

概要

この資料は原因 CPU 稼働率を Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) の AsyncOS 9.7.x へのアップグレードした後でより高いかもしれません記述したものです。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

AsyncOS 9.7.x への ESA をアップグレードした後で CPU 使用率が高い状態

AsyncOS 9.7.x へのアップグレードした後で、全面的な CPU 稼働率が AsyncOS の前のバージョンよりかなり高いことが分るかもしれません。これはこの数が AsyncOS 9.7 で以上にどのような計算されるか変更が原因です。

機能による CPU 使用

AsyncOS のすべてのバージョンでは、いくつかのアプライアンスの個々のサブシステムにカテゴリを、たとえば反スパム報告する、CPU 使用がアンチウイルスおよび報告あります。これらのカテゴリはシステム 容量レポートの機能 セクションによってステータス詳細 Command Line Interface (CLI) コマンド、または CPU で見られる場合があります。

これらのカテゴリのそれぞれのために、CPU 使用はこれらの方式を使用して計算されます:

1. カテゴリの各プロセスの CPU 稼働率はマシンの各 CPU コアのために記録されます
2. 各プロセスに関しては、ある CPU コアのためのパーセント利用はそのプロセスのためのほとんどのアクティブ使用されます。プロセスによる他の CPU 使用はすべて結果で使用されません
3. ステップ 2 で見つけられるすべての CPU 使用数の合計はカテゴリに CPU 使用を提供するのに使用されています

ESA のすべての実行されているプロセスがこれらのカテゴリの 1 つに含まれていないことに注意することは重要です。たとえば、URL フィルタリング、Graymail、AMP および添付ファイル処理はあらゆるカテゴリに含まれていません。さらに、オペレーティングシステムのカーネル Level 関数はこれらのカテゴリに含まれていません。

変更した点

前に AsyncOS 9.7:

AsyncOS 9.7 前に、すべてのカテゴリの合計は全面的な CPU 使用のために使用されました。これは必ずしもアプライアンスの実質全面的な CPU 使用を反映しなかった CPU 使用数という結果に終わりました。それはすべてのプロセスを説明しなかったし、すべての CPU コアを説明しませんでした。

AsyncOS 9.7 以上に:

AsyncOS 9.7 およびより高く、全面的な CPU 使用でオペレーティング システムのカーネルによって報告される CPU 負荷に基づいて計算されます。すべてのプロセスおよびカーネル機能のためのこのアカウント CPU を使用する、従って報告された CPU 使用は AsyncOS の前のバージョンより一般的に高いです。

注: [AsyncOS 9.7 に関するリリース ノート](#)の動作のこの変更は動作 セクションで、変更します文書化されています。この表の CPU 稼働率 項目の表示を参照して下さい。

CPU 負荷対 CPU 稼働率

AsyncOS の前のバージョンは全面的な CPU 使用を計算するときプロセスの CPU 稼働率を使用しました。ただし、かなり同じメトリックではない使用 CPU 負荷の上の AsyncOS 9.7 および。

CPU 負荷はとりわけ CPU アクセスのためのキューまたは現在 CPU をアクセスしたにあったことプロセス (平均すると所定の時間 フレーム) の数を示します。このメトリックからのパーセント数で着くために、アプライアンスの CPU コアの数に分け、100 によって増加して下さい。

通常 CPU 負荷はロードが CPU コアの数を超えるとメトリックとして役立ちます。そのような状態はいくつかのプロセスが CPU にアクセスを並んで待たなければならなかったことを示します。100% へのレポート システム 限界このメトリック、従って過度に負わせられた ESA は絶えず 100% CPU 負荷を使用するようです。これは CPU 負荷が 100% に絶えず長時間にわたって残る場合高 CPU ロードが不安の原因であるただはずであることを意味します。